

育ネットつなん

津南町教育委員会

育ネットつなん事務局

昔、昔の話



津南町教育委員会
教育長職務代理者
太平 義弘

真夏の涼

小学生の頃、学校にプールはありませんでした。アブラゼミが『ジーンジーン』と鳴き、太陽がぎらぎらと照りつける夏休みの楽しみは、川の水に浸かることでした。

石坂集落へと続く吊り橋(今は車も通れる立派な橋になっています)の下付近に、親たちが岩で流れを堰き止めた中津川が私たちの水浴び場でした。

浮き輪、水中めがね、(ヤスも良かったかも)、何でもOKでした。そこで、みんな思い思いに水を掛け合ったり、潜ったり、飛び込んだり、泳ぎの練習をしたりしました。

岩で堰き止めてあるといっても、結構流れが速いのです。川を横断する際には、随分流されたものです。また、なんたって常時流れている川なので、水の冷たいことといたら半端じゃないのです。水に浸かってしばらくすると、腕には『さぶさぶいぼ』、歯はガチガチ鳴って唇は紫色に。そうなる、川から出て大きな岩にしがみつくのです。太陽の熱で熱くなっている岩は、私たちの冷え切った体を温めてくれるのでした。

水浴びに夢中になっている私たちの監視は、親たちが輪番で当たっていたようです。小学生の私にとって至福のひとつときでした。

真冬の通学路

中学生時代、私は中深見から反里口にあった町立中津中学校まで、約2kmの道のりを通っていました。町道や405号線(当時は電车道とっていました)は砂利道で、冬期間は除雪車も入りません。

降った雪は、そっくり積もります。冬期間の通学靴はゴム長靴で、靴底がすり減って滑ってくると藁や縄を巻いて滑り止めにしたものでした。降ったら積もる、降ったら積もる、の繰り返しでしたので、地面から相当高い位置を歩いていました。

道路脇の家々が屋根の雪下ろし(雪上げだったかもしれませんが)をすると、通学路は屋根の高さにまでなりました。しかも道幅は、一人一人がやっと通れる程しかありません。前から歩いてくる人を見かけると、急いで脇の雪やぶを踏み固めて避ける場所を作ったものでした。

親からは、「相手の人が避ける前に自分から避けるんだよ」といつも言われていたのです。

令和2年度

自立の町で自立した子を育てよう

「強くてやさしい子」を育てる津南町子育て教育プラン

めざす姿

子育て教育の 基本理念

- ◆先人の歩みを学び、未来を切り拓く希望をはぐくむ。
- ◆人と人とのつながり、自然や歴史、雪国文化のつながりの中で未来を創造する。

自分で自分の
生き方を切り拓く
「強くてやさしい子」

「自立に向けた発達過程における
子どもの姿」を基にして

子育て教育の課題

- ◆保育園
遊びこむ意欲を高める。
- ◆小・中学校
基礎基本を身に付け、
学ぶ意欲を高める。
- ◆子育ての基盤である家庭・
地域の教育力の活用を図る。

キャリア教育の視点に立った教育活動の推進

苗場山麓ジオパークをステージとした特色ある教育活動を核として

家庭

よりよい生活習慣を
はぐくもう

- 早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロールなどの良い生活習慣をはぐくむために協力し合う姿
- 家族で明るくあいさつし会話する姿

保育園

生活や遊びを通して
生きる力の基礎をつくろう

- 身の回りの人や自然と進んでかかわり熱中して遊ぶ姿
- 自分でできることを進んでやろうとする姿
- 元気にあいさつする姿

学校

「津南に学び 津南に返す」教育活動を通して夢と活力をはぐくもう

- 自分や地域の良さに自信をもち夢や目標をもって努力する姿
- 自分にできる地域貢献をしようとする姿
- よりよい生活習慣・学習習慣を身に付けようとする姿

地域

地域に貢献する
活力をはぐくもう

- 地域の中で明るくあいさつや会話を交わす姿
- 町の大人みんなで子どもを育てようとする姿
- 子どもの地域貢献を支える場づくりをする姿

保護者部会

保育園父母の会、小・中学校PTAが家庭の役割について考え、連携した取組を推進します。



子育て：教育に関する連携

町PTA連合会・福祉保健課・教育委員会等

地域部会

町の子育て教育関係組織が連携し、あいさつ運動の推進や中学校の職場体験等の充実に向けた支援を行います。



育ネットつなん 連携体制

～「強くてやさしい子」をみんなで育てるためのネットワーク～

強い子 夢や目標をもって粘り強く努力する子 やさしい子 相手の立場を思いやって行動する子

推進委員会 ← 全体会 ← 部会

育ネットつなん
共通実践事項

I 早寝・早起き・朝ごはん運動を通して、子どもの心身の健康を守る。

- (1) 家族の会話を増やして「メディアコントロール」の習慣づくり
- (2) 毎月19の日「育の日」は、「食育」と「ノーマディア」に普段以上に取り組む日

II あいさつ運動の推進(毎月10日は「あいさつの日」)

- (1) 町ぐるみの『あいさつ運動』の展開のため、組織間で連携活動を継続する。
- (2) 校園の『あいさつ運動』を紹介するとともに、家族や大人が率先してあいさつを行う。

III 郷土に誇りをもち、家庭や地域のために行動する意欲の一層の向上を図る。

- (1) 家庭や地域の一員として役割を果たす子どもの育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を進める。
- (2) 郷土愛を軸としたキャリア教育と苗場山麓ジオパーク関連活動をつなぐ取組を工夫する。



各園父母の会・各校PTA総会等

学校運営協議会等

保育園部会

保育園と町子育て支援担当者が連携し、乳幼児・母子保健、幼児教育、保・小連携など、小学校入学前のより良い子育てにつながる取組を推進します。

自立に向けた成長のスライドアップ

園長会議・校長会・教頭会・教育振興会等

学校部会

小・中・中等教育学校が連携し、保小中の連携、家庭や地域との連携など、地域と共に歩む学校づくりを推進します。



令和2年度『育ネットつなん』共通実践事項について

- I 早寝・早起き・朝ごはん運動は、子どもの心と体の健康を増進します。
「寝る子は育つ」と昔から言われてきました。規則正しい生活習慣に、運動が加わるとまさに、鬼に金棒です。『自分で決めた時刻に起床し、朝食を摂る。そして、決めた時刻に就寝する。』日々の生活習慣は、保育園・学校等での活動の原動力になります。家族の会話を大切に、『メディアコントロール』にも力を入れましょう。
- II あいさつ運動の推進（毎月10日は「あいさつの日」）は、心を育みます。
挨拶の挨（あい）には、相手に心を開くという意味が、挨（さつ）にはその心に近付くという積極的な意味があると言われます。人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩は、明るいあいさつから始まります。幼い時期からの習慣化が大切です。
- III 郷土に誇りをもち、家庭や地域のために行動する意欲を向上させます。
まずは、家族の一員として、家族のために手伝いができるように育てていきましょう。「頑張ったね！」と労われ、「ありがとう！」と感謝され、子どもは、自己肯定感・意欲を高めていきます。子どもの小さなやる気を見逃さず、大事に育てていきたいものです。
子どもは、人のために活動することを通して、より一層心を太らせていきます。

現実体験のすすめ

嘱託管理指導主事 滝沢甲子夫

一般家庭では、「ラジオは有ったがテレビは無え、電話も無え、車はほとんど走って無え」、ある歌の歌詞のような時代に私は津南町に生まれ、津南町に育てていただきました。今の大型テレビやいつでも情報収集ができるパソコン、携帯電話やスマートフォンなどは、私の幼少時代には夢にも思わなかった世界です。この楽しく便利な道具は、今の私たちの日常の生活や仕事には欠かせないものとなっています。最近、年のせいか幼少時代に過ごした日々を思い出す事が時々あります。当時の子どもたちの遊びと言えば、山遊び、木の上に基地を作り、木登りをして遊びました。私は木登りが苦手でしたので、いつも木の下から材料を渡す係でした。川遊びでは、川岸の石の上で見守り係でした。それぞれ苦手なことも多くありましたが、一人一人に役割があり、みんなで相談したり話し合ったりし、そして教え合いながら楽しく遊びました。また、憧れの中学生たちのリードで公民館や神社の草取り、祭りの準備や拍子木を鳴らしながら夕暮れ時の火の用心、生暖かい風が吹く日は、お化けが出そうと早足で回ったことなど懐かしく思い出します。今思うとそこには子どもたちの社会があり、教え伝える主体的・対話的な学びがあったような気がします。

現代は、便利で楽しいことがいっぱいの中です。しかしそこには落とし穴がたくさんあり、トラブルや事件、メディア依存などの諸問題も多く見られます。メディア体験はいつでも可能な時代ですが、現実体験は意図的に仕組んで行かないと難しい世の中かもしれません。津南町の素晴らしい環境の中で多くの現実体験をおすすめします。そして、津南町の子どもたちが、心身ともにバランスよく成長することを願っています。

令和2年度 子ども・若者に関するご相談はこちらへどうぞ

津南町教育委員会では子どもたちの健全育成を願い、次のような相談支援を行っています。お気軽にご相談ください。

こんな時は、
ご相談ください。

- ・気持ちがなかなか学校に向かなくて・・・
- ・欠席が少しずつ増えている。
- ・家族との会話がこの頃ほとんどなくなった。

つなんにこやかルーム

不登校や不登校傾向のある児童生徒を支援する教室です。家庭と学校をつなぎ、徐々に集団生活への適応力を付けていくことができるように支援していきます。

保護者の相談も受け付けています。

- * 開設場所：津南町正面（旧津南消防分遣所）
- * 開設時間：午前9時～午後3時
- * 活動日時：火～金 午前9時30分～午後2時30分
- * TEL/FAX：765-4985

* 適応指導教室指導員：若山洋子

- ・友達とつき合うのが苦手。
- ・学校になじめない。
- ・子どもが元気に学校に行けるようにしたい。
- ・子育てに悩んでいる。
- ・指導が上手くいかない。

訪問相談

訪問相談員が保育園、学校、家庭等を訪問して子ども・保護者・教職員等の相談に応じています。子どもや教育に関する悩み、相談ごと等がありましたら、お気軽に声をかけてください。

つなんにこやかルームでの相談にも対応します。

- * 相談時間：午前9時30分～午後3時
- * 相談専用電話：765-4995

* 訪問相談員：涌井裕子 大島直子

- ・ほかの子どもと遊ばせたい。
- ・発達の様子で気になることがある。
- ・子育ての話が聞きたい。
- ・親同士、友達になりたい。

子育て支援センター

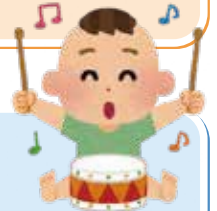
乳児・幼児に遊びの場を提供しています。保護者、ご家族どなたでもお立ち寄りください。

子どもや親同士が交流できる楽しい「つなっぺ広場」もあります。

子育ての相談等がありましたら、お気軽に相談ください。

- * 午前9時～11時30分、午後1時～4時
- * 相談時間：午前8時30分～午後5時15分
- * TEL：765-2738

* 主任保育士：樋口ゆかり



子ども若者育成支援関係相談窓口

子どもたちの相談のほかに18歳までの若者に関する問題、悩みことについても支援していきます。下記にご連絡ください。直接、お越しいただいても結構です。

■ 教育委員会 子育て教育班 TEL：765-3118

指導主事：市川綾子 子育て連携専門員：内山喜代子 臨床心理士：鳥居美枝

■ 福祉保健課 健康班 TEL：765-3114

主任保健師：星名由紀子（教育委員会兼務）